地域ぐるみの情報一元化で鳥獣被害対策に対する住民意識の変化

1. 上白石地区3組織（松江市宍道町）

【結成】R3年8月16日
【構成】上白石自治会、上白石環境保全会、
　　農事組合法人ししじの郷はくいし
【戸数】34戸

上白石地区は、イノシシによる農作物被害が増加していることから、R3年2月に地域ぐるみ（※）で鳥獣被害対策に取り組む「鳥獣被害対策指定地域」に指定。

《地域ぐるみ（※）の被害対策のイメージ》

地域のリーダーが対策の必要性を認識
↓
全ての住民への対策の必要性を意識づけ
↓
必要な被害防止活動の実施
①被害、目撃情報の連絡　②捕獲
③防護柵の設置・管理や周辺の草刈り
④地域にある鳥獣の「えさ場」を除去

2. 取組の経過及び概要

当地区では、過去にクマが出没したことがあり、人身被害を想定した対策も必要であることから、自治会と環境保全会（多面的支払組織）、（農）ししじの郷はくいしの3組織が一体となった体制づくりとして「上白石地区3組織」を結成。

併せて、各住民の役割と責任を明確にした実施体制を整え、全戸に周知して地域ぐるみでの活動がスタート。

《各住民の役割と責任》

・地域住民等：被害、目撃及び捕獲状況の報告
・情報収集担当：情報集約、迅速・的確な対応
・わな設置担当：わな設置と捕獲個体の処分

高木情報収集担当者と若手住民3人との打合せ

3. 取組の成果

(1) 地域ぐるみでの取組による情報の一元化

全戸に対策の必要性を周知したことで住民の意識と知識が向上。実施体制を整備し役割分担を明確化。

①住民からの目撃情報等が情報収集担当者に一元的に集約。

②若手住民が中心となって見回を担当。センサーカメラを設置し、映像確認やその後の対応が迅速化。

カメラ映像 目撃情報 → 情報担当者 → 地域住民 → ワナ設置等 柵修繕・ → 捕獲増加

③効果的なワナの設置により捕獲頭数は増加。

	R2	R3	R4	R5
捕獲頭数	―	10	32	28

④侵入防止対策として、補助事業を活用して、防護柵（ワイヤーメッシュ）を総延長約7kmまで設置（残り約6km）。

(2) 他地域への波及

当地域の取組が管内の他の指定地域（大谷上、上本庄ほか）の参考となり、何れの地域も自治会、多面的組織、営農組合等が連携した地域ぐるみの取組が前進。

法人の役員から一言

自治会と環境保全会と一緒に実施体制を整えたことなどにより、住民の意識が変わり、目撃情報等が逐次入るなどみんなで実態を共有できるようになった。

地域ぐるみなくして鳥獣被害対策はなく、そのためには人づくりと組織づくりが不可欠だと感じた。

高木情報収集担当

4. 課題と今後の取組方向

(1) 侵入防止対策として、防護柵を地域全体に拡大する必要。

(2) 現在、狩猟免許取得者が1名しかいないため、世代交代等による若手作業従事者の確保（狩猟免許取得者の増員）が必要。

〈問合せ先〉東部農林水産振興センター農業振興部　0853-32-5662